



## 荒尾市在宅医療フォーラム開催！

平成 28 年 12 月 4 日熊本大学大学院生命科学研究部 神経精神医学分野主催で「認知症のひとを支える在宅ネットワーク」をテーマに認知症市民公開講座を開催いたしました。来場者が 230 名を超え、大盛況でした。

第 1 部の基調講演では、座長に熊本大学の石川先生、講演は愛媛県伊予市の保健師 相田紗也可氏をお招きし、伊予市中山町での認知症への取り組みを、具体例を交えてわかりやすくお話ししていただきました。

報告では熊本県地域拠点型認知症疾患医療センター 宗 久美氏より荒尾市における「火の国あんしん受診手帳」を用いた連携について経過報告がありました。

第 2 部のパネルディスカッションでは「認知症高齢者の在宅生活を支える医療介護連携を目指して」をテーマに鴻江和洋先生を座長にお迎えし、5 人のパネリストの皆様それぞれの立場からお話をいただきました。その後、パネリストの皆様にご来場者の方々からの質問に答えていただき、最後にコメンテーターの藤澤先生からお話しがありました。皆様、たくさんのご来場ありがとうございました。



## 第 14 回 事例検討会開催！

デスカンファレンス ～自己決定を支えた病院と在宅の連携～

荒尾市民病院 緩和ケア認定看護師 松山 美保

病状や介護環境から在宅緩和ケアは困難と思われていたが、病院と在宅の多職種連携により看取りまでの支援ができた患者のデスカンファレンスを行った。病院と在宅それぞれの立場でその時の支援や喜び、苦悩などに共感し、患者、家族の自己決定を支えたことを共有することができた。そこで有明地域の医療・介護施設の医療従事者に対し、その思いの共有とデスカンファレンスの有効性の理解を目的に、平成 28 年 12 月 7 日、第 14 回在宅医療連携事例検討会・第 22 回有明緩和ケア研究会の合同で事例検討会を開催した。

医療・介護・行政より多職種が参加。まず多職種の担当者(医師、看護師、薬剤師、理学療法士、相談員、在宅支援診療所医師、訪問薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー)がそれぞれの立場での関わりを発表した。ディスカッションでは、「多職種の密な関わりが在宅支援につながった」との意見が多く寄せられたが、「困難な事例を在宅に帰すことが本当に良かったのか」との疑問の意見もあった。アンケートの回収率は 74% (参加者 77 名、回答者 57 名)。デスカンファレンスを初めて知った 21%、デスカンファレンスは行われていない 35%、デスカンファレンスが有効と思われる内容の上位 3 つは、今後のケアに活かす 24%、気持ちの共有 18%、スタッフ間の理解を深める 17%であった。自由記載には「多職種連携の有用性を認識できた」「デスカンファレンスで人に寄り添うことの難しさを振り返られた」など多くの感想が書かれていた。

デスカンファレンスは、患者理解の深まりと実践を評価することで、スタッフ間の相互理解や、ケアへのヒント、そして手がかりとなり、今後への活力、示唆を得ることにつながると言われている。今後さらにチーム力を高め、やりがいを見出すものとするためには、カンファレンスの質を上げていく必要がある。有明地域は高齢者の増加に伴い、施設や在宅での看取りが増えてくると予想されるため、デスカンファレンスの事例検討会を今後も続けることで、緩和ケアの地域連携への普及および質の向上につながればと思う。



## 第 15 回 事例検討会開催！

熊本県地域拠点型認知症疾患医療センター

医療法人洗心会 荒尾こころの郷病院 古林 美香

平成 29 年 2 月 1 日(水)19 時～21 時、荒尾市医師会館会議室にて、「震災」をテーマに第 15 回荒尾市在宅医療連携事例検討会が開催されました。当日はインフルエンザが猛威を振るう時期と重なり欠席者もでしたが 55 名の参加がありました。

第 1 部では、「熊本地震における高齢者への対応について」熊本県健康福祉部長寿社会局認知症対策・地域ケア推進課の松尾俊司氏より講演を頂きました。震度 7 の地震が 28 時間以内に 2 回発生するという観測史上初の出来事から 10 ヶ月。その経過のなかで見えた課題と、高齢者等への対応・支援について報告が行われました。

県として行われた災害支援活動内容としては、介護保険施設利用の調整・支援、認知症高齢者への対応の広報、介護予防推進、経験したなかでの課題を国へ要望することなどが行われていました。しかし、県民からはその活動は、見えにくく“縁の下の力持ち的な役割”と 報告を受け、初めての体験のなかで多大なるご苦勞をされていることが伝わりました。

第 2 部の事例検討では、「被災した専門職の立場から熊本地震を考える」をテーマとして、益城病院の精神保健福祉士 田中美奈氏と、古川法聖氏より、事例提供を受けました。被害が大きかった益城町で、自ら被災者として避難所生活を送りながらも、専門職としてできる事を考え、行動された経過について報告が行われました。質疑応答では、電子媒体として情報が管理されている時代のなかで、被災時の情報収集のあり方をどのようにして行ったのかなどの質問があり、活発な意見交換が行われました。情報管理は、紙媒体での併行した保管の必要性と、人と人の関わりの中で得られていた大切な記憶が大変役に立つことを教わりました。

今回の事例検討会では、時間を制限するまでの沢山の質問があり、参加者の皆さまの関心の深さが印象に残りました。未曾有の出来事は、人ごとではなく、いつどこで発生するか分からないと切実に感じる貴重な時間となりました。事例検討会の開催にあたりご協力頂きました関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。



荒尾市在宅医療連携室 在宅ネットあらお  
荒尾市宮内 1092-18(荒尾市医師会敷地内)  
TEL:0968-57-9350 FAX:0968-57-9605  
<http://zaitaku.arao-med.or.jp>  
ホームページにも載せておりますのでご覧ください  
担当:青木・長岡